

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02181

研究課題名（和文）人口流動化する産業衰退地域の再生と生活困難者の地域就労を結ぶ支援モデルの開発研究

研究課題名（英文）Research and development on a support model binding between the community revitalization and the employment of vulnerable people

研究代表者

牧里 毎治（Makisato, Tsuneji）

関西学院大学・災害復興制度研究所・研究員

研究者番号：40113344

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果は、農業・漁業あるいは地場産業の衰退する過疎地域・中山間地域では既存資源を再活用する地域循環型社会の構築が、地域社会の住民の内発的自治力を引き出すキーパーソンの存在と、自主的で主体的な地域連帯と公民協働の取組みをおこなった地縁組織によることが明確になった。水産業や農業の人材不足などに高齢者・障害者を活用する例や、耕作放棄地を協同農園として活動財源化する例、地域の生活困窮を見える化して課題解決型の募金・寄贈システムを創出した例、空家のみならず閉店レストラン、休業旅館を福祉施設として再利用する例などは、個人資源を地域社会資源に変換する地域循環型社会モデルの可能性を例示するものになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、地域産業衰退地域の生活困難にある地域住民の生活力維持と地域再生・持続の結びつきは、既存資源の再活用と地域参加の機会の創出に寄っていることを明らかにしたことである。既存資源の再活用とともに、高齢者や障害者など労働市場から排除された住民の内発的な人材資源の登用が要因ということができた。これらの事実に基づく考察から、社会資源・地域資源を地域文化、生活文化、福祉文化の交互作用として捉え直す学術的な視点を導くことができた。

社会資源を文化資源として捉え直す試みは研究業績としても皆無に近く、これからの福祉的支援や福祉サービスの拡充に資する社会資源開発に寄与することになるだろう。

研究成果の概要（英文）： The research results revealed that the construction of a regional recycling-oriented society that reuses existing resources in depopulated areas where agriculture, fisheries, and local industries are declining depends on the existence of key persons who draw out the intrinsic autonomy of local people, as well as local organizations that have made voluntary and independent efforts in regional solidarity and public-private collaboration. Examples of the use of the elderly and the handicapped in the fisheries industry and agriculture for the shortage of human resources, the use of abandoned farmland as a cooperative farm to fund activities, the creation of a problem-solving donation system by visualizing the living difficulties of the community, and the reuse of not only vacant houses but also closed restaurants and closed inns as welfare facilities illustrate the potential of a regional recycling-oriented society model that converts personal resources into community resources.

研究分野：社会福祉学

キーワード：地域産業衰退地域 既存資源の再活用 地域参加の機会 文化資源 地域文化 生活文化 福祉文化
社会資源開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

人口減少とともに人口移動が激しくなっている日本社会は、これまでの福祉国家体制を現状のまま維持し続けることに陰りを見せ始めている。中央集権的な体制の下で成立する社会保障制度の維持も伝統的な地域社会の存続を前提とするには疲弊し始めている。このような問題意識の下、過疎化し人口流出する地域の再生とそこに生活する住民の生活再建は可能性があるのか、地域福祉の実践家も交えた「地域生活応援研究会」や活動家たちの意見交流を目的とした「全国校区・小地域福祉活動サミット」などを行ってきた。これまでにない新しい手法を開発するには、実践家や自治体関係者からも取組みや活動の基礎となる理論的な研究が求められていた。変貌する地域社会をどのように捉えれば、新しい地域社会の創出に向かえるのか、その探究がはじめられた。とりわけ定住志向の強い従来の地域社会の維持が産業衰退とともに生活装置としての地域社会の結びつきを弱体化させ、これまでの労働・就業の存続維持だけでは地域社会の自治力も急激に弱めていくことが顕著となった。このように認識すれば、地域社会も新しく就労や就業を可能とする地域社会再生の方策が必要という見識に至った。

2. 研究の目的

高齢者、障害者などの生活困難者への福祉的支援と、衰退する地域産業に代わって地域再生を可能とする生活支援モデルの可能性を明示することが主たる目的である。都市の求める若年労働者の流出に対応して地域社会の生活と自治を持続化させる取り組みの実例を収集し、その傾向分析をするなかで「持続可能な地域福祉好循環モデル」の可能性を明らかにすることをめざした。とりわけ地域資源である既存の施設、定住滞在する人材、信頼度の高い人間関係に着目して、従来の慣習や方法に囚われない新たな開発方法を探索し、見落とししてきた学術的視点を明示することが目標となった。

3. 研究の方法

少子高齢化と人口流動にともなう過疎化や自治機能低下に取り組んでいる基礎自治体および市町社会福祉協議会など地縁系団体の取組みについて資料収集と聞き取りによる観察と分析を主たる研究方法とした。研究期間の大半がコロナウイルス蔓延により直接対面調査に支障をきたしたが、オンラインによる聞き取りなどを加えて対処した。生活困窮者自立支援事業を実施している基礎自治体や生活困難者の支援に機動的に対応するコミュニティソーシャルワーカー配置の基礎自治体など調査協力団体を選び出し、資料収集や聞き取り調査を試みた。協力の得られた主な市町は、三重県伊勢市、鳥羽市、伊賀市、鈴鹿市、名張市、紀宝町、埼玉県三芳町、北海道釧路市、広島県庄原市、沖縄県那覇市、南風原町、鹿児島県鹿屋市などである。抽出の基礎となったデータは全国社会福祉協議会からの情報提供によるところが大きい。

4. 研究成果

研究成果は、農業・漁業あるいは地場産業の衰退する過疎地域・中山間地域では既存資源を再活用する地域循環型社会の構築が、地域社会の住民の内発的自治力を引き出すキーパーソンの存在と、自主的で主体的な地域連携と公民協働の取組みをおこなった地縁組織によることが明確になった。水産業や農業の人材不足などに高齢者・障害者を活用する例や、耕作放棄地を協同農園として活動財源化する例、地域の生活困窮を見える化して再利用する例などは、個人資源を地域社会資源に変換する地域循環型社会モデルの可能性を例示するものになった。

研究成果の学術的意義としては、地域産業衰退地域の生活困難にある地域住民の生活力維持と地域再生・持続の結びつきが、既存資源の再活用と地域参加の機会の創出に依っていることを明らかにしたことである。既存資源の再活用とともに、高齢者や障害者など労働市場から排除された住民の内発的な人材資源の登用が重要な要因ということができた。これらの事実に基づく考察から、社会資源・地域資源を地域文化、生活文化、福祉文化の交互作用として捉え直す学術的な視点を導くことができた。

社会福祉研究の領域でも「社会関係資本」という学術用語が用いられているが、この概念は経済学での投資と利益の効果評価に引き寄せられやすく、経済的な関係以外の互助システムや互助活動には不向きなところもあり、むしろ「社会資源」概念に戻って再検討することが有益なのではないかという見解に至った。そのためには生活支援や福祉的援助に資する社会資源における文化的機能を再評価する必要に迫られたといえる。社会資源もしくは地域資源をめぐる創出と利用、あるいは社会資源・地域資源の保存と継承には社会資源の有する文化的価値や文化的機能に着目して地域住民の生活や福祉的支援に影響を与えるインパクト評価が重要となる。しかしながら、社会資源を文化資源として捉え直す試みは研究業績としても皆無に近く、ある意味では経済的価値のないとされる社会資源は見捨てられ顧みられない傾向にあり、経済活動に

結び付かない社会資源研究が低調になる結果だったともいえる。必ずしも経済的循環に寄与するわけでもないが、これからの福祉的支援や福祉サービスの拡充に資する社会資源開発の研究には文化資源としての社会資源の見直しが問われることになるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 牧里每治	4. 巻 10月
2. 論文標題 福祉が農業に取り組む意味と意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 35、39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧里每治	4. 巻 1-1
2. 論文標題 包括的支援体制とコミュニティソーシャルワーク	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 5、12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大井 智香子	4. 巻 8
2. 論文標題 住民組織化としてのファンドレイジングに関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合人間科学	6. 最初と最後の頁 165-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山 泰幸	4. 巻 39
2. 論文標題 文化遺産とまちづくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践民俗学研究	6. 最初と最後の頁 103-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki Yama	4. 巻 8
2. 論文標題 Sociology of ritual and narrative as post-Western sociology: from the perspective of Confucianism and Nativism in the Edo period of Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Chinese Sociology	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40711-021-00146-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 妻鹿ふみ子, 大井智香子	4. 巻 37
2. 論文標題 共生社会構築の基盤としてのCaring with(2) ケアの責任を問う ~Caring withの関係性からの考察~	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉大学人文公共学研究論集	6. 最初と最後の頁 108-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 妻鹿ふみ子, 大井智香子, 伊丹謙太郎, 竹端寛, 廣田智子	4. 巻 40
2. 論文標題 共生社会構築に寄与するケア倫理とは - ケア倫理の社会実装のための問い直し -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉大学人文公共学研究論集	6. 最初と最後の頁 40-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山 泰幸	4. 巻 11号
2. 論文標題 「復興儀礼」とは何か-「制作論的転回」と「復興コミュニティをデザインする知」をめぐって-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代民俗学研究	6. 最初と最後の頁 87-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧里每治	4. 巻 3
2. 論文標題 高齢者の社会的孤立をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ボランティア研究	6. 最初と最後の頁 47 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧里每治、川島ゆり子	4. 巻 59-3
2. 論文標題 2017年度学界回顧と展望、地域福祉部門	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 192-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大井智香子	4. 巻 7巻
2. 論文標題 社会福祉協議会が取り組む地域資源開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合人間科学	6. 最初と最後の頁 75-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大井智香子	4. 巻 1巻
2. 論文標題 戦後社会福祉法制度における社会資源概念の変遷に関する一考察 社会資源開発の再検討に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 公共と文化	6. 最初と最後の頁 3-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山 泰幸	4. 巻 30号
2. 論文標題 地震なき風土論－関東大震災と和辻哲郎の人間観	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本災害復興学会誌「復興」	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山 泰幸	4. 巻 14巻
2. 論文標題 韓国ソウル群衆事故（梨泰院惨事）を考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 災害復興研究	6. 最初と最後の頁 111-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 文化遺産とまちづくり
3. 学会等名 国立民俗博物館・実践民俗学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 地域復興と協働のエスノグラフィー
3. 学会等名 京都大学防災研究所 第46回総合防災セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 災難以後まちづくりと祭り
3. 学会等名 韓国・ソウル大学 海外碩学招聘講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 文化遺産と現代社会
3. 学会等名 韓国・東亜大学 海外学者招聘特講
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 象徴的復興とは何か？-過疎と災害からの地域復興の事例から-
3. 学会等名 愛知大学国際中国学研究センター文化社会研究班主催ミニシンポジウム「現代社会における文化の変容と民俗の復興」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 民話の環境民俗学-人と自然の物語
3. 学会等名 Andong National University海外碩学招聘特講（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山 泰幸
2. 発表標題 Practice of Using Cultural Resources for Community Revitalization and Disaster Risk Reduction in Depopulated Areas in Japan
3. 学会等名 Andong National University2020 BK21 Plus Project Teams International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大井智香子
2. 発表標題 地域文化資源の有効性
3. 学会等名 日本社会福祉学会中部地域ブロック部会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岩本 通弥, 門田 岳久, 及川 祥平, 田村 和彦, 川松 あかり編(分担 山 泰幸)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 民俗学の思考法 今・ここ の日常と文化を捉える	

1. 著者名 岩本 通弥編(分担 山 泰幸)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 380
3. 書名 方法としての 語り -民俗学をこえて	

1. 著者名 とよなか国際交流協会 / 編集・牧里每治 / 監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 298
3. 書名 外国人と共生する地域づくり～大阪・豊中の実践から見えてきたもの	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大井 智香子 (Ooi Chikako) (60352829)	皇學館大学・現代日本社会学部・准教授 (34101)	
研究分担者	山 泰幸 (Yama Yasuyuki) (30388722)	関西学院大学・人間福祉学部・教授 (34504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------